

小山市本場結城紬未来継承ビジョン【概要版】

小山市が誇る伝統産業であり、平成22年（2010年）に世界のユネスコ無形文化遺産に登録された結城紬の産業活性化に向けた振興策について、生産反数の減少や後継者の育成等の状況を踏まえ、本場結城紬の未来継承を目的にビジョンを策定するものです。

本場結城紬の産地振興を引き続き行う中で、新組織の立ち上げは本場結城紬を確実に継承するための将来的な選択肢の一つであり、ビジョン策定後においても生産組合や関係機関等との協議を行い、産地と行政が一体となって産地振興と並行して進めるものとします。

将来的な新しい組織

柱 1. 後継者の育成

《目標》 原料製作をはじめ各工程に技術習得者が安定的に存在している。技術継承が継続的・循環的に行われる状況にある。

つくる『人』が必要

- 市職員紬織士3名が継続的に活動
 - 紬織士（本場結城紬の全工程を習得する者）の雇用維持
- 技術指導者の確保・育成
 - 紬織士が指導者としての技術を身に付ける
 - 工房スタッフや研修生等の技術者を育成
- 工房スタッフの確保・育成
 - 下拵え等を含めた本場結城紬全般の技術を身に付ける
 - 工房運営や製作技術を紬織士と相互協力
- 民間後継者の育成
 - 原料や製織等の民間技術者を育成

つくる『機会』が必要

- 研修会の開催（有料/無料）
 - 製織技術者の育成研修の実施
 - 各種製作技術に関する講習会の開催
- 欠落した工程を技術指導により穴埋めできるシステムの構築
 - 欠落した工程に対し、紬織士による技術補填・指導派遣
 - 生産継続希望の民間後継者への技術支援
- 製作上の過程における相談受付システムの構築
 - 紬織士から製作技術に関する指導や相談を受けられる
 - 各分野の後継者同士が情報交換を行える場・機会の創出

柱 2. 結城紬をつくり続ける

《目標》 後継者の活動拠点が確保され、原料の糸が確保されている。

つくる『場所』が必要

- 後継者の共同作業場の確保
 - 官民の後継者が技術の相互提供や協力し合える工房機能を持った製作環境の整備

つくる『材料』が必要

- 後継者が使用する原料の確保
 - 袋真綿や手つむぎ糸を製作するための小山産繭の確保（国産繭も活用する）

柱 3. 結城紬の活用

《目標》 製作された本場結城紬が販売され、着られている。小山市が産地だと認識されている。本場結城紬の学習により、小中高生への理解が定着している。

『販売体制』の強化

- 卸商図案の受注と納品
 - 紬織士・工房スタッフが受注
 - 民間の織子に製織依頼
 - 卸商への納品
- 後継者が生産した本場結城紬の販路開拓
 - 後継者が技術維持や新柄研究として製作した反物の販路開拓等を検討
- インバウンド（訪日外国人）に対応

『着用機会』の強化

- 市民向け本場結城紬購入促進
- 和装イベントの開催
- 市民向け着付け教室の開催

『情報発信』の強化

- 本場結城紬情報発信強化
 - 専門HPの開設やSNS等の活用
 - 小山産繭の魅力発信
 - 各組織と連携しPR

『学び』の強化

- 子どもの文化・産業教育の拡充
 - 製作等の体験授業の実施
 - 着心地体験の開催

本場結城紬
継承サイクル

連携

『紬織士』の採用

- 紬織士を市職員として確保

全工程の技術継承

- 産地が一体となって取り組むための新組織（公社/第3セクター等）を立ち上げ、生産から販売まで行い技術を継承

行政間の連携強化

- 栃木県との連携・調整
 - 紬織物技術支援センターとの連携
- 茨城県・結城市との連携
 - 両県・両市が垣根を超えて産地全体で協力

産地内の連携強化

- 織物協同組合・販売関係団体等との連携
 - 新組織への図案発注・販路開拓等について協議
 - 小山農業協同組合と連携

事務人材の確保

- 専門知識のある事務職員の確保・育成
 - 本場結城紬の業界に精通した人材が事務局長として新組織の事務運営を行う。

小山市